

受入団体名：衣笠キャンパス地域連携課

募集人数

6名

団体プログラム名：絶滅寸前種フジバカマの栽培・活用を通じたまちづくり

<活動期間：2023年10月3日～12月5日 活動日数：9日程度>

<活動日or 活動パターン>

■週1日程度・定例

<活動の流れ>

日時(予定)	活動内容
10/3(火)	絶滅寸前種フジバカマの説明、衣笠キャンパスのフジバカマの観察、散水、アサギマダラの飛来確認、嵐電駅への定植
10/10(火)	嵐電の駅に植えたフジバカマの観察、フジバカマ保全活動に取り組む住民との交流、アサギマダラの飛来確認
10/17(火)	2022年度活動の振り返りと2023年度活動計画の検討
10/24(火)	活動計画に関する意見交換①
10/31(火)	活動計画に関する意見交換②
11/7(火)	活動計画に基づく活動①、草木染め準備(葉の剪定等)
11/14(火)	活動計画に基づく活動②、草木染め
11/21(火)	活動計画に基づく活動③、匂い袋づくり準備
12/5(火)	活動計画に基づく活動④、匂い袋づくり、フジバカマ冬支度(腐葉土掛け等)

<主な活動場所>

衣笠キャンパス東側広場

※集合場所

至徳館1階 衣笠キャンパス地域連携課

<キャンパスからの交通手段>

徒歩

<活動に必要な費用>

無料

<参加の姿勢>

地域連携活動の一環として活動していますので、地域から参加される方とも積極的に交流してください。

<コミュニケーションの手段>

■電子メール ■LINE ■電話

<活動のテーマと主な内容>

絶滅寸前種フジバカマの栽培・活用を通じたまちづくり

2020年7月に公益財団法人京都市都市緑化協会からフジバカマの原種の苗を衣笠キャンパスに受け入れて以降、学生、教職員、地域住民、企業(嵐電)やボランティアグループとともに育ててきました。2021・2022年の秋に2年連続して中国・台湾と日本との間を2,000km移動する美しい蝶「アサギマダラ」がフジバカマの蜜を吸いに衣笠キャンパスにも飛来しました。絶滅寸前種のフジバカマの栽培「挿し芽でふやす→植える→観察する→収穫する→上手に使う→芽が出る→挿し芽でふやす・・・」というサイクルを地域連携による協働・ネットワークを通じて行うことで、SDGsの目標15「生物多様性損失の阻止」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を目指しています！

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

地域住民、企業、大学が三位一体で絶滅寸前種フジバカマを育てることを通じてまちづくりに取り組んでいることをよく理解して、参加する自分たちもその一員であることを認識して行動するようにしてください。

<学生が期待できる学び>

フジバカマを育てる、フジバカマを活用する「協働作業」が有するネットワーク構築力を実感することができます。また、衣笠キャンパスの位置する京都市北西部地域の方々の地域愛にも触れることができます。そしてこのような地域で学ぶことの意義を認識することができます。

<活動紹介>



フジバカマ挿し芽で増やそうイベントの様子



フジバカマ鉢植えイベントの様子



嵐電の駅へのフジバカマ設置



フジバカマを利用した草木染めの様子in御室小



フジバカマを利用した草木染めの様子in御室小



手芸サークルと協働での匂い袋づくりの様子①



手芸サークルと協働での匂い袋づくりの様子②



東側広場で育つフジバカマの様子



フジバカマに飛来した渡り蝶アサギマダラ